

平成 30 年度

竜王町教育委員会の権限に属する事務の
管理および執行状況の点検および評価に
かかる報告書

竜王町教育委員会

平成30年度 竜王町教育委員会の権限に属する事務の管理および執行状況の点検および評価にかかる報告書

竜王町教育委員会
教育長 甲津 和寿

1. はじめに

平成20年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正を受け、竜王町教育委員会においては、毎年6月から8月の間に、前年度における教育委員会の権限に属する事務の管理および執行状況の点検および評価を実施しています。

そして、その点検および評価結果をとりまとめ、9月定例議会中に議会に報告するとともに、ホームページ等を活用して住民の皆様に公表するとの方針を平成21年度に定めています。

このことを踏まえ、平成29年度教育委員会活動をはじめとする「平成29年度竜王町教育行政基本方針」に基づく事務について、点検および評価を実施しましたので、ここに報告いたします。

2. 具体的な取組の経過

① 竜王町教育委員会事務点検および評価要領に定める一次評価の実施 説明会の開催

* 6月14日（木） 教育委員会事務局 所属長対象

- ・一次評価および二次評価等の要領説明と一次評価に関する説明
- ・一次評価の実施について
⇒期間：平成30年6月15日（金）～6月22日（金）
⇒内容：各所属において、所掌事務に関し自己評価による一次評価を行う。
- ・竜王町教育委員会事務点検および評価要領の定めにより、教育委員会の各部署において書類作成と一次評価を実施
(平成29年度の教育行政基本方針の項目ごとに評価)

② 6月定例教育委員会議 6月22日（金）開催

- ・平成30年度 事務評価にかかる事務日程の承認
- ・竜王町教育委員会事務評価委員会設置要綱に定める評価委員3名については前年度からの継続（任期：平成29年4月1日から2年間）

氏名	所属等
河口 眞佐男	国立大学法人滋賀大学教職大学院教授 滋賀次世代文化芸術センター運営委員
大谷 五十二	小学校英語教育学会（JES）理事 びわこ学院大学非常勤講師
飯村 悟	近江八幡・竜王少年補導委員会副会長 竜王町社会教育委員

- ③一次評価の集約 期間：6月25日（月）～6月28日（木）
- ・教育委員会各部署での一次評価について、教育総務課にて集約を行い、総合評定を実施
- ④二次評価のための資料送付 その1 7月4日（水）
- ・評価委員に対して、「教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務」にかかる一次評価結果を送付し、個々の評価委員から一次評価にかかる意見を事前にまとめていただくように依頼
- ⑤第1回 竜王町教育委員会事務評価委員会 7月10日（火）開催
- ・第一次評価基準について、従来のAからDまでの4段階評価からAの上位にS評価を位置づけた5段階評価へ変更することについて説明
 - ・「教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務」における各事業に対する質疑応答も含め、一次評価にかかる不明な点や加筆が必要な箇所を中心に協議
 - ・上記を踏まえ、一次評価を一部加筆修正し、後日評価委員に再送付することとした。
 - ・評価委員の評価をもとに二次評価原案を作成、評価委員長による点検を経て、第2回評価委員会に提案、協議することとした。
- ⑥教育委員による一次評価 7月20日（金）～7月26日（木）
- ・「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理執行する事務」事項について、一次評価を実施
- ⑦二次評価のための資料送付 その2 7月30日（月）
- ・評価委員に対して、一部加筆修正した「教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務」、「教育委員会の活動」および「教育委員会が管理・執行する事務」事項にかかる一次評価結果と参考資料を送付し、個々の評価委員から二次評価にかかる意見を事前にまとめていただくように依頼
- ⑧7月定例教育委員会 7月31日（火）開催
- ・一次評価の全体協議
- ⑨第2回 竜王町教育委員会事務評価委員会 7月31日（火）開催
- ・二次評価および総括意見について協議し、一部文言を修正することを踏まえて「平成30年度竜王町教育委員会事務点検評価にかかる二次評価について」を取りまとめる。
- ⑩8月10日、第2回竜王町教育委員会事務評価委員会を踏まえて修正し、最終報告内容を確定する。
- ⑪8月定例教育委員会 8月23日（木）開催
- ・事務評価委員会河口委員長からの「平成30年度竜王町教育委員会事務評価にかかる二次評価について」の報告を受け、議会への報告要領および住民への公表方法等について協議

- ・議会への報告については、9月定例議会の教育民生常任委員会において説明を行った後、町長を通じて議会に報告書を提出することを確認

3. 評価を終えて

事務事業評価に係る外部委員については、昨年度に引き続き3名の方にお願ひしました。

また、評価の実施については、「竜王町教育委員会事務点検および評価要領」に従い、教育委員会の承認を経て実施しました。

評価の具体については、「平成30年度竜王町教育委員会事務評価にかかる二次評価について」に掲載しています。

まず、はじめに、昨年度までの4段階評価を、新たにAの上位にSを設け5段階評価とし、A評価であってもさらなる高みをめざすための課題整理をしたのは、PDCAを着実に回していくためにも非常によい方向であるとの評価をいただきました。今後も続けていきたいと思ひます。

「教育委員会の活動」および「教育委員会が管理・執行する事務」については、平成29年度も丁寧かつ着実に取り組んでいるとの評価をいただきました。特に、教育委員が毎学期町内全学校園を訪問し、保育や授業の様子を参観するとともに、学期ごとにテーマを決めて学校園から説明を受け、その後、意見交換するという取組について、高い評価をいただきました。今後は、一般の教職員との意見交換や休み時間の子どもの様子を参観するような学校園訪問も考えていきたいと思ひます。

「総合教育会議」については、貴重な会議が実り多いものとなるよう、協議テーマについて十分検討するとともに、継続性、発展性のある会議となるよう工夫していくようにとの意見をいただきました。

次に、「教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務（教育行政基本方針の重点目標、重点施策に基づく事務）」の中の学校教育分野においては、様々な教育活動に大変協力的な地域性に支えられて、充実した取組が進められているとの評価をいただきました。

教育課程の充実による「確かな学力」の育成と向上、就学前から中学校までの一貫した竜王町らしい英語教育の充実については、着実に成果が上がっている取組を継続するとともに、全ての子どもの基礎学力定着に係る課題や応用力・活用力育成に係る課題については改善策を具体的に検討し実践を積み重ねていくようにとの意見をいただきました。また、「主体的・対話的で深い学び」が求められている中であって、特に竜王の子どもたちには、「主体的な学び・積極的な学習姿勢」を促進するような実践を積み重ねてほしいとの意見をいただきましたので、今後、町の校園長会や教頭会等の協議テーマに位置づけながら進めていきます。

教育・保育の充実においては、よりきめ細かな指導や支援をめざして、町費で嘱託講師や特別支援教育支援員、特別支援加配職員、図書館司書等を配置していることに高い評価をいただきました。それぞれの配置が「確かな学力」の育成はもとより、「豊かな心」の醸成や「健やかな体」の育成に大きく寄与していることを踏まえ、今後も継続していきたいと思ひます。

また、平成29年度初めて立ち上げた「学校園自主公開アピール事業」については、教職員個々の自主的、主体的な授業改善や校内研究の推進に大きく寄与する施策であると評価していただきました。

学校給食については、献立の工夫により米、野菜の他、加工品等の地場産物も積極的に取り入れていることについて、高い評価をいただきました。

子どもたちを取り巻く環境については、いつ、どこで、何が起こるかわからない昨今の状況をしっかりと認識し、常に高い危機管理意識を持って、施設設備の管理や点検、修理修繕を行うとともに、安全教育、不測の事態に備えた子どもや教職員の訓練、危機管理に係る教職員研修等をしっかりと行うようにとの意見をいただきました。学校園の教職員、教育委員会事務局関係者で問題点や情報を共有するとともに、適切に対応していきたいと思えます。

次に社会教育分野においては、竜王町公民館の年間を通じての取組や様々な事業による賑わいの創出は素晴らしいとの評価をいただきました。一方で、子どもも大人も参加者や来館者が偏っていないか、固定化していないかのご指摘をいただきました。統計をとり分析しながら、裾野を広げる働きかけをしていきたいと思えます。

教育フォーラムについては、ネット社会の問題を取り上げ啓発の機会としたことや、「スマートフォン、携帯電話を利用する時の親子の6カ条」を共通認識し合う場を設けたことについて評価していただきました。今後も継続した取組にしていきたいと思えます。

また、学校支援地域本部を公民館に置き、統括マネージャーとコーディネーターが町内各校園担当者と密接に連携をとりながら、学校園が求める支援や協力にタイムリーに応えられているのは、大変素晴らしく県内他市町はもとより全国のモデルとも言える推進体制であり、その実績も含めて高い評価をいただきました。今後も、ボランティアや地域人材の発掘に努め、学校応援団の広がりや深まりに努めるとともに、地域学校協働活動の理念を踏まえた活動に取り組んでいきたいと思えます。

町立図書館での2回にわたるライブラリーコンサートは、新しい来館者の開拓にもつながる積極的な取組として評価していただきました。また、図書館では、町民の生涯学習の場や学ぶ機会の充実に向けて、様々なアイデアや工夫が凝らされているとの評価もいただきました。さらには学校教育と密接に連携するため、学校図書館司書との情報交換会を開催したことについても評価していただきました。今後ともしっかりと継続していきたいと思えます。

インターネットやSNSの急速な普及に伴い新たないじめや差別問題が発生している現状を踏まえ、学校教育、社会教育両分野でマナー教育、心の教育、人権教育をしっかりと進める必要があるとの意見をいただきました。学校園、保護者、地域、関係機関、団体と連携を密にして実効性のある取組を一層進めていきたいと思えます。

家庭教育の重要性についての啓発や働きかけを進める仕組みづくり、また、青年団をはじめとする若者層の活動支援や社会教育分野での人材育成、特に、リーダー養成についてはまだまだ課題が見られることから、今後の取組に期待したいとの意見もいただきましたので、関係機関、各社会教育関係団体と連携しながらこれらの解決に向け、取組を進めていきたいと思えます。

「スポーツの日常化」をめざした健康体力づくりの推進については、引き続き多くの町民のスポーツ活動への参加促進や運動習慣の定着に努めるようにとの意見をいただきました。加えて、2024年の滋賀国体において、スポーツクライミング競技が竜王町に内定したことを受け、スポーツクライミング、とりわけボルダリング競技の普及啓発に計画的、積極的に取り組んでいかなくて

はならないとの意見をいただきました。県の国体事務局や山岳連盟の支援や協力を得ながら、しっかりと着実に取り組んでいきたいと思いをします。

以上のことを踏まえ竜王町教育委員会としましては、平成30年度後期の事務事業実施に当たり、PDCAを着実に回すとともに、今回の点検評価で頂いた意見や提案を踏まえ、課題克服に向けた改善と一層の充実をめざす取組について、スピード感を持って進めていきます。

なお、取組を進めるに当たっては、学校園教職員、関連施設の職員の声等、いわゆる「現場の声にしっかりと耳を傾ける」とともに、平成29年度から取り組んでいる文部科学省の委託事業である働き方改革を意識した業務改善、組織力向上の視点を大切にしながら、一步一步丁寧に進めてきたいと思いをします。

結びに、「竜王町の未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」の基本目標実現に向けて、竜王ならではの教育、竜王だからこそできる教育にこれからも積極果敢に取り組み、「教育でキラリと光る竜王のまちづくり」をめざしていくことをここに誓い、本報告書の結びといたします。

平成30年8月10日

竜王町教育委員会 へ

竜王町教育委員会事務評価委員会
委員長 河口 眞佐男

平成30年度竜王町教育委員会事務評価にかかる二次評価について

竜王町教育委員会が平成29年度において実施した事務および事業について、事務評価委員会として、二次評価を行うと共に総括意見を付して、下記のとおり報告いたします。

1. 全体を通して

竜王町教育委員会事務点検および評価要領に基づき、竜王町教育委員会事務評価委員会では、竜王町教育委員会が所管する事務の管理・執行状況について、点検および評価を実施しました。地教行法の一部改正を受けて平成21年度に本委員会が設置されて以来、本年度で10回目の実施となります。

点検・評価の対象は、「教育委員会の活動」および「教育委員会が管理執行する事務」ならびに「教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務」の3項目です。

特に、「竜王町の未来を拓く心豊かでたくましい人づくり～教育でキラリと光る竜王のまちづくり～」を基本方針とする平成29年度竜王町教育行政基本方針が掲げる5つの重点目標と、これらを踏まえて推進された26の重点施策について点検および評価を行いました。

尚、今回の点検評価を行うに際しては、教育委員会から次のような説明を受けました。

- ① 昨年度の一次評価では最上位評価のAが全評価項目の8割、更に、良好とされるB評価を加えると全評価項目となっているが、事務点検評価が「地域の実情と住民ニーズに応じ、より効果的な教育行政の推進に資すると共に事務事業の管理および執行状況についての透明性の確保と町民への説明責任を果たす。」ことを目的とする以上、教育委員会が『現状に満足することなく常により高みをめざす組織であり続けること』が大切であること。
- ② そのためには、成果と課題を明確にした上で、めざすべき姿をしっかりと見定める必要があり、この意味から、より客観的視点を加えた制度とする必要があること。
- ③ 具体的には、今年度から、一次評価の基準を従来の4段階評価からAの上位にS評価を位置付け、SからDの5段階評価としたこと。

評価委員会ではこの姿勢を高く評価し、この評価点検という作業を通して、今後も発展し続ける竜王町教育委員会であることを大いに期待するところです。

さて、一次評価については、今年度においても自己評価シートに加え、教育委員会および総合教育会議の会議開催状況等の補足資料も参考にしました。

昨年度の事務事業を概観すると、学校教育分野における手厚い講師等の加配措置、英語教育の一層の質的向上に向けた取組等や社会教育分野における学力アップ教室や地域学校協働本部事業等、更なる教室・講座の充実等をはじめとして多くの点で、常により一層の質の向上をめざすべく積極果敢に挑戦する教育委員会の姿勢を認めました。人口12,000人余りのコンパクトな自治体ゆえの利点を遺憾なく発揮されていますが、学校園数が少なく、学校園間で切磋琢磨し合い互いに刺激し合う機会が限られているがゆえの課題もしっかりと認識する必要があります。

また、前回の評価において指摘および提案がなされた事項については、より効果的かつ適切な形での改善実行がなされていることを付言しておきます。

以上のことを踏まえ、一次評価に基づいて事務評価委員会で検討した内容について、以下に、列記することで二次評価といたします。

- * 昨年度の評価を真摯に受け止められ、改善実行されているのは大いに評価できる。また、適切に事業を展開され、成果をあげられている。
- * 竜王町は、教育のための予算をしっかりと確保している。特に、少人数学級や特別支援へのきめ細やかな人的対応は特筆される。他市町の範となる取組である。
- * 小さな町ゆえに、教育委員会と学校・地域が大変近い関係にあり、子育て世代にとって安心して住める町になっている。反面、多方面に亘って町を挙げて取り組むことに「負担感」を持つ住民も存在することに留意が必要である。公教育のあり方として、その折り合いをどう付けるかが課題である。
- * 幼稚園での英語に親しむ時間の創出する取組は、時宜を得たものであり高く評価したい。特に、密度の濃い英語教育に取り組む初等教育への円滑な接続が期待でき、幼・小・中と一貫した質の高い教育実践へと繋がる。
- * 全国の先陣を切って国の業務改善加速事業を受託し、業務改善アシスタントを全小中学校に配置したのはコンパクトな竜王町の利点に着目した先見性の高い取組として素晴らしい。その結果、教職員の多岐に及ぶ多くの業務が見直され削減に繋がりを、子どもと向き合う本来業務に集中するためや教職員の自己研鑽のための時間確保となり、教師力・学校力向上の素地を固められたことは評価したい。
- * 町内2小学校での「学校園自主公開アピール事業」の取組は、年間に亘る有識者の指導助言を踏まえて授業改善を図り、その成果を公開授業や研究会を通じて広く公開することで一層の「教師力・学校力」の向上を目指している。併せて、教職員個々の自主的かつ主体的な授業改善や校内研究の推進に寄与する取組であるとも言える。これら2つの視点からも大いに評価したい。

2. 各項目について

【教育委員会の活動】に関して

- * 総合教育会議を3回／年開催し、教育行政推進にかかる課題を首長と共有した上で、これの解決に向け取り組まれているのは評価できる。今後、現状の回数やテーマ設定のあり方の適否について常に検討を加え、当該会議が竜王町の更なる教育振興に向け、より有意義な機会となるよう努められたい。
- * 総合教育会議のテーマを、都度、変えられているが、例えば、年間を通じて統一したテーマに絞り、様々な角度から検討を加え意見交換をする等、継続性や発展性のあるものにするのも一案である。
- * 教育委員会の会議の情報を町HPに掲載し広く周知に努められた。これまで皆無であった傍聴人も、初めて2名あったことは成果と考える。しかし、1回のみであったことは、残念である。「開かれた教育行政」は民主的な教育推進の要諦であり、引き続き、町民の傍聴が得られるべく情報発信に粘り強く取り組んで頂きたい。
- * IT社会の進展により、どこの市町も周知手段としてHPを活用しているが、周知方法をHPに頼り過ぎていないか。今一度、他の情報発信の手法についても検討する時期に来ているのではないか。
- * 教育委員が学期ごとにテーマを設定しての校園への訪問を継続されているのは素晴らしい。今後、出来れば一般教職員との意見交換や休み時間の子ども達の様子も参観されることで、それぞれの校園が抱える個別具体の状況が見えてくると考える。
- * 給食センターへの公式訪問が今年度も出来ていないのは残念である。教育委員として、竜王教育の魅力創出の一翼を担う給食事業の実際について一層の現状把握に努めて頂きたい。また、学校給食運営委員会への参画は今後も継続されたい。
- * 学習指導要領の改訂を始め、教育を取り巻く状況が大きく変わる現下において、各種研修会に参加し、国・県の動向を町の教育行政に反映出来るよう努めているのは評価できる。
- * 教育委員会議は一般住民からすると遠い存在である。町民が教育を身近に感じるための手法として「教育委員と一般町民の懇談会」等が企画されても良いのではないか。

【教育委員会が管理・執行する事務】に関して

- * 総合教育会議において、教育大綱に代わるものとして毎年度の教育行政基本方針を充てることとしたのは、事業評価の適正さを担保する上でも評価できる。
- * 教育行政基本方針を写真や模式図を活用するなど、住民に見やすい方針になるように努められたのはいい。PDCA（評価・改善・実施）サイクルにより、充実を図られている。
- * 教育予算については、その議案の原案を作成するまでに至らなかったのは残念で、今後の努力目標として継続して取り組んで頂きたい。事務レベルでの骨格予算編成

の時期を思い切って早めることも方策である。

- *少年補導員会、スポーツ推進委員会、学校園保健委員会、学校園評議員などの各委員会が教育委員会の所管委員会として位置付けられ、定期的にしっかりと開催されている。住民任せ・学校任せにせず、行政が責任をもって取り組んでいる。
- *平成30年度小中学校の特別支援学級および小学校「特別の教科 道徳」において使用する教科用図書の採択にあたり、5月から県第3地区において選定審議会を設け、適正に調査研究された資料をもとに、町教育委員会においても採択が実施されたのは良かった。

【教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務】に関して

1. 「社会を生き抜く力」の着実な育成を図る学校・園教育の推進

- *特色ある学校園づくりでは、竜王小学校において4年目となる学校運営協議会と学校支援地域本部との連携による「地域に開かれた学校づくり」の継続的な推進が行われたのは良かった。
- *竜王町の学校支援地域本部の取組は全国から注目される取組である。これからも学校の教職員との意見交流を深め、「より分かる授業」「子どもの体験が生きる授業」のために機能する活動になることを期待している。
- *竜王町教育の日の取組として教育フォーラムにおいてネット社会の問題を取り上げ、啓発されたことは、町全体の課題を明確にする上において重要である。また、「学力向上6カ条」「スマートフォン、携帯電話を利用する時の親子の6カ条」を各校園や単位PTAの活動として推進されたのは大きな成果である。今後も、校園単位、更には、地域において継続した取組を期待したい。
- *教育フォーラムにおいて、全国学力学習状況調査で明らかになった課題解決のための家庭教育の重要性について積極的な啓発を行われたのは良かった。
- *幼小の連携での5・5交流「にじ色おはなし隊」活動は、継続を望む。
- *長期休業前に「りゅうたろうくんの生活リズム点検表」で、生活リズムの形成を図られたのは良かった。
- *町内全小中学校に町費講師を配置し、完全35人以下学級が実施できたことは、個々に課題をもった児童・生徒への支援および学力保証の面等で評価ができる。今後、よりきめ細やかな指導法の改善に向けて研究が進むことを期待している。
- *竜王町が様々な教育課題に先進的な取組を推進されていることは素晴らしいことだが、学習活動に積極的な子が少ないのではないか。「主体的・対話的で深い学び」の観点から、更なる授業改善が進むことを期待したい。
- *全国学力学習状況調査で上位とされる他県の教育内容を見ると、特別活動（朝の会、学級会活動、児童会活動）を昔通りに進めている学校が多い。英語、体力づくり、ICT、道徳等々、取り組むべき今日的課題は山積であるものの、その推進については不易流行に留意されることを期待する。
- *文科省指定教育課程特例校や県教委指定「小中高系統的英語教育推進事業」「小学

校英語パイオニアプロジェクト事業」の指定を受け、小学校英語の教科化に向けたカリキュラムの充実と、中学校英語科の4技能の総合的な育成や言語活動の高度化についての研究を進められているのは評価できる。英語検定補助金制度、英語スピーチ大会、姉妹都市スーセーマリー市への中学生の派遣などの取組は県下はもちろん全国規模のモデルとなる。平成30年度全英連滋賀大会では、授業発表の機会を得て全国に竜王の存在を知っていただくいい機会を得た。また、英語検定3級相当の能力の生徒の割合が県40%に対し、竜王町は47%で都道府県に換算すると全国6位相当の成果をあげられたのは素晴らしい。

- * 小学校6年生の英語力調査では能力的に高い。英語を学ぶ必要性について意識が低いことを課題としてあげている。これは全国的な傾向でもある。指導者、地域、保護者などの協力が必要で特に指導面での工夫が大切である。
- * 若手教員研修制度の必要性は今後益々高まってくる。国も検討課題に挙げているが、年々、子どもたちが抱える課題の複雑化と多様化は予想を上回っており、授業力等、指導力の向上が求められる。初任者へは手厚く指導されているが、団塊世代の大量退職を機に、若手が多くなっており、2年目、3年目の教員への指導では実績を持つ教職員OBなどの協力を得て、「子どもがわかりやすい授業、惹き付ける指導テクニック、保護者対応、課題をもった児童・生徒へのかかわり方」など日々の実践の中で学ぶことが大切である。また、ICT機器の積極的な導入と研修を重要課題にして欲しい。また、教育委員会が準備した研修だけでなく、自主的に研修に参加する意欲を持つ教師の育成や研修に割く時間的な余裕の確保にも尽力されたい。
- * 小中の学校図書館司書の配置やボランティアの協力を得た読書活動の推進、そして、図書館との連携は、学校図書館の常時開館につながり成果をあげているのは素晴らしい。全小中学校で朝読書を実施しているのは、部活動などで読書離れが顕著な中学校においては効果が大きい。毎朝の10分間読書は高校生や大学生の読書離れを防ぎ、生涯の読書週間につながる。各校の図書主任や教職員と連携を図りながら各校の実態（児童・生徒の要望）を踏まえ一層進めて欲しい。
- * 読書は「させる」のではなく、親や周囲の者が楽しそうに読んでいるのを見て「読みたい」と思う環境を作ることが大切だと言われている。子どもにさせる以前に、読書大好きな竜王のまちづくりを目指してもらいたい。
- * 「特別の教科 道徳」の実施に向け、授業研究や研修を実施されたのはよい。教科化に向けて評価のあり方など、更に研修を深めて欲しい。
- * フッ素洗口事業の継続実施で、虫歯0への取組の継続推進の成果として中学校3年生でう歯率が県内一の低さは誇れる。
- * アレルギー対策で「竜王町アレルギー疾患管理の流れ」に沿った対応は良かった。今後、医学の進歩でアレルギーの児童・生徒が増えることが予想される。教職員のアレルギーをもった児童・生徒への現場における実技訓練を是非実施してほしい。

- *外部指導者を活用して、部活動の選択肢を減らすことなく子ども達が求める部活動を確保すると共に競技の専門性を高められたことは、中学校部活動の充実に繋がった。また、働き方改革に繋がる点でも評価される。
- *米、野菜における地場産物の使用割合が52.9%であり積極的に地場産物を取り入れるように努力されているのは評価できる。
- *いじめ対応支援員の配置による未然防止・早期対応の充実と共に、アンケート等の実施による児童生徒理解と「いじめをしない・させない・見逃さない」集団づくりを進めておられるのは歓迎したい。生徒指導の基本である「報告、連絡、相談」体制に力を入れられ実施されているのは評価できる。
- *就学支援委員会の設置趣旨が「特別な支援を必要とする幼児、児童、および生徒にふさわしい教育を行う」であることについて、保護者や関係者へのより一層の理解に努める等、子どもにとって真に必要な教育的支援を享受できる環境づくりが求められる。
- *災害発生時を想定した保護者への引渡訓練を幼稚園と小学校が合同で実施されたことは評価できる。反省点を踏まえ着実に毎年実施して欲しい。地震、台風、不審者、大雨など、これで大丈夫ということは決してない。また、携帯メールの有効活用は、情報発信システムでの安全確保に繋がった。
- *防災、安全教育とその実効ある取組は喫緊の課題である。「備えあれば憂いなし」とは言うが、常に事故・事件と隣り合わせだとの認識をもって改善に努めて頂きたい。
- *大阪北部地震の時、大阪では登校中だった子が多かった。学校と家庭との狭間の時間帯における子ども達の安全確保対応も大変重要である。

2. 子育て支援の充実と青少年の健全育成の推進

- *就学前教育の質的充実益々重要となる。保護者のニーズにこたえつつ、一層の充実を図ることは難しい課題であるが、この反駁する課題解決に向け竜王町だからこそ出来る子育て支援のあり方を検討して頂きたい。
- *発達に課題のある子どもの早期発見に今後も努められ、一人ひとりに応じたきめ細やかな支援を切れ目なく行えるようお願いしたい。子どもの発達で悩んでおられる保護者への呼びかけを進めてほしい。
- *発達支援課と協働での高等学校への訪問を通して、高等学校と連携し、町内在住生徒の早期支援につなげられたのは評価できる。
- *保護者の視点に立った関係機関の支援体制構築は今後とも継続させ、社会人になってからも継続的な支援を続けて頂くことを願っている。
- *竜王町はPTA連絡協議会が機能している町だと思われる。これからも町を挙げての青少年の健全育成活動が継続されることを願っている。
- *「子育て親育ちのための研修会」の実施は評価できる。特に若い親（母親）などには孤立傾向があり、情報不足やコミュニケーション不足が考えられる。
- *次代を担う青少年の健全育成は、地道な取組の継続性が非常に必要に思う。幸い弱体化が

懸念された町青年団への支援が成果を挙げていることは喜ばしいことであり、今後も、体制や組織づくりに務めて頂きたい。

- * 近江八幡竜王少年センターの指導員1名を竜王町に配置されているのは評価できる。巡回パトロールや相談業務対応に努められたが、相談について来所者がなかったのは残念で、一層、周知の徹底を図ることが必要と考える。

3. 生涯学習の推進と次代への継承をめざす文化財保護の推進

- * 学区に拘らず全町を対象とした学校支援地域本部設置の竜王方式の取組は、特筆に値する。竜王町の地域特性を活かした学校園の活性化に大いに寄与している。地域ボランティアの高齢化という課題はあるが、次へと継承していけるものとする。更に啓発活動に努めて頂きたい。昨今、効率化のもとに公民館活動の縮小化が進められようとしている状況下にあることは、地域の衰退に繋がるのではと危惧される。竜王町では是非とも現体制による推進発展を期待している。
- * 学校支援地域本部に統括マネージャーとコーディネーターを配置し、学校とボランティアの調整や支援活動の推進を行ったのは評価できる。
- * 高齢者(シニア層)だからこそできる地域社会への貢献機会の創出を意識しつつ「学校支援地域本部事業」に積極的に取り組むことにより、地域に生かし地域に活かされる高齢者活動が推進できたことは評価できる。
- * 竜王町公民館の取組や賑わいは素晴らしい。キッズクラブやキッズスクールも竜王らしい取組だが、参加している子の「のべ」人数は多いものの、同じ子がいくつもの取組に進んで参加し、参加していない子は全く無関心といった二極性が目立ってきているように思われ、参加する子どもの総数を増やす取組が必要である。
- * 公民館来館者数が目標数5万人以上に対して、実績が6万7千と大きく上回ったことは評価できる。
- * 子どもたちが遊びや体験活動を通して、異年齢および地域の人々との交流を深め、そのことが仲間づくりに繋がり、更に、技能を伸ばすことなどにより、何事にも果敢に挑戦する心を育て、一層の仲間づくりや楽しく生きる力の醸成に努められたのは評価できる。
- * 夏休み・冬休み・春休みに学力アップ教室を開催されたのは良かった。また、漢字検定試験の実施も評価できる。
- * 「第2期図書館基本計画」に基づく図書館活動で、図書貸し出し冊数が住民一人あたり10.9冊は誇れる数である。
- * 初めて図書館でライブラリーコンサートを実施したことは、多くの来館者を得たことと併せ、図書館の新しい視点からの魅力や可能性を感じる。積極的な姿勢を高く評価したい。今後も継続することで、図書館の新しい利用者の開拓に繋がることを期待したい。
- * 公民館のHPへのアクセスや図書館のWebでの予約などパソコンのみの対応から携帯端末からも予約できるようになり成果をあげている。
- * 学校図書館司書等との情報交換は是非必要で、表面に出ないが学校職員との連携が不可欠である。
- * 竜王町立図書館は落ち着いた雰囲気図書館で利用しやすい。図書館への来館を促

す取り組みもなされているが、利用者が限られているのが惜まれる。

- * 学校への出前貸し出し、おはなし会やブックトークは、子どもにとって大切な取組だと思う。竜王小学校からは近い距離にあるので、学校から図書館に向く学習も出来るのではと考える。
- * 人材育成の分野で一番弱いのが、キャンプ指導、自然観察指導などの野外活動指導者の発掘・育成であるとのことであるが、活動には危険がつきもので子どもたちに無理のない計画、下見、保険加入などの課題解決を優先し慎重にすすめて欲しい。
- * 社会教育関係団体補助金が「例年通り」の支出となっているが、今日的課題への対応を促す等、団体の自主性を尊重しつつも踏み込んだ指導により予算の有効活用が望まれる。
- * 青少年のリーダー育成はどこの市町でも課題となっているが、岡山学区のジュニアリーダークラブなどはこれからの参考となる取り組みである。青年団等をリーダーにして小学生のリーダーを養成するクラブになると今後が楽しみとなる。
- * 町指定の文化財を月に1回巡視したり文化財の環境整備を行ったりと、町挙げての文化財保護活動の姿が見られる。
- * 苗村神社大祭の集大成本は後世に残る貴重な資料である。
- * 埋蔵文化財の理解普及と学校関係の連携の取組は、ふるさと学習の観点からも継続されることを願っている。
- * 地域の歴史に親しむ機会の充実では、中学2年生の勤労体験で、埋蔵文化財にかかる作業体験を実施されている。是非続けてほしい。1週間（5日間）の内容も大切である。

4. 「あらゆる差別のない明るく住みよいまちづくり」をめざす人権教育の推進

- * 地区別懇談会を全32地区で開催されているが、参加者総数が980人と前年比348人減少している。啓発、取組の見直が必要である。内容、開催方法も検討されたい。
- * 外国人の人権をテーマに「じんけんを考えるみんなのつどい」を開催して、「ともに生きる社会をめざして」を演題に京都朝鮮歌舞団の講演により在日韓国人の方々の人権について考える機会をもたれたのは評価できる。
- * 「人権啓発セミナー」を5回開催され、人権を考える機会提供と内容の充実をめられたのは評価できるが、受講者に固定化がみられるとのこと、今後、一般町民の受講（参加）に向けた啓発が課題である。
- * 「あらゆる差別のない…」という理念は、おそらくどなたも共有されていることだと思うが、他方で「人と違うことをする」ことに対する恐れ、「人と違う意見を言う」ことへの抵抗が知らず知らずのうちに広がっていることも事実である。他の人の意見を寛容に受け入れるまち、少数意見が尊重されるまちづくりを進めて欲しい。
- * いじめが一層潜在化していることから、未然防止やいじめ問題の解決に向けて、人権教育の視点を踏まえつつ、学校・家庭・地域が連携してしっかりと取り組んでいく必要がある。

5. 「スポーツの日常化」をめざした健康体力づくりの推進

- * 「スポーツの日常化」をねらいとした各事業の推進は成果を着実に挙げていると判断する。国民的課題ともいえる健康体力づくりは将来の竜王町はもとより我が国にとって重要なテーマである。今後も地道な活動を大切にしていきたい。
- * 学校体育施設および社会体育施設を一般開放し、町体育振興協会と連携して、総合体育大会および元旦マラソンを実施されたのは評価できる。ニュースポーツやラジオ体操等の指導も評価できる。
- * ウォーキング普及のため取り組まれたのは良かったが、広がりには課題が見つかったことで検証が必要である。体を動かすのが好きな子に育てる運動習慣の定着は、心身の健全な成長に繋がる。
- * ウォーキングやラジオ体操など、誰もが気軽に取り組める運動は大切である。ウォーキングとスマホアプリの組み合わせ、ウォーキングポイントでショッピングといった取組が進むと若い世代にも広がりやすいと考える。
- * 2024年滋賀国体において、スポーツクライミング競技の開催地が竜王町に内定したことは、県内、全国的にも知名度は低いのではないかと考える。今後の普及啓発が課題である。特に、ボルダリングを町のシンボルスポーツにする以上、内定を機に益々盛んになって欲しい。若い世代や、子どもたちがチャレンジ出来るように、コーチ陣の招聘や有名選手の練習会場に提供するのも一つのアイデアと考える。また、小学校や中学校にサークル的なボルダリング部の設置も一案である。

平成30年度

竜王町事務点検評価に係る
1次評価および資料

平成30年度 平成29年度事業にかかる竜王町教育委員会事務点検および評価シート

- S：的確な事業実施がなされ、非常に大きな成果があがっているもの
 A：適切な事業実施がなされ、十分な成果があがっているもの
 B：成果としては良好なものが得られているが、更なる充実が望まれるもの
 C：一定の成果をあげているものの、課題もあり検討を加え努力すべきもの
 D：成果が乏しく抜本的な見直しとともに、改善が必要なもの

1 次評価

教育委員会の活動			
項目	小項目	評価	点検・評価（記述）
1 教育委員会の会議	(1) 会議の回数	A	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回の会議開催を定例会と位置付け、平成29年度は、毎月、計12回を開催した。 全学期に5校園を訪問し、全学級を参観、校園長等からの説明を受けると共に、課題改善に向けた意見交換を行った。 その他、各種式典や行事・研修会に出席した。
	(2) 会議の運営上の工夫	A	<ul style="list-style-type: none"> 会議資料の事前配布に努め、付議内容を事前周知することにより、会議の深度が深まり、かつ、効率的な進行に資することができた。
2 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	(3) 傍聴者の状況	B	<ul style="list-style-type: none"> 町のホームページを活用し開催日等を広く周知し開かれた委員会づくりに努めたが、結果として傍聴者の参加は2人だけであった。
	(4) 公開・広報・公聴	A	<ul style="list-style-type: none"> 公開、公聴については、会議の開催日、場所を町ホームページに掲載し、開かれた委員会づくりに努めた。 教育行政基本方針を各種会議で配布し、年間を通して教育委員会の活動を広く周知した。 教育委員会の事務点検評価を町ホームページに掲載した。
3 教育委員会と事務局との連携	(5) 委員と事務局との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> 委員と事務局は、常に連絡を取りながら、円滑な委員活動に努めた。
4 教育委員会と首長との連携	(6) 総合教育会議の開催	B	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年4月からの地教行法の一部改正を受けて、教委に事務委任を受ける中、年3回の総合教育会議を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 教育大綱（平成29年度教育行政基本方針）平成29年度における英語教育の取組 スポーツライミングの普及と啓発について 第2回 竜王町に求められる子育て支援と家庭教育のあり方 今後の竜王町の青少年健全育成について 第3回 今後求められる就学前教育の姿について 竜王幼稚園での保育参観 今後は、会議をより充実させるため、継続性・発展性のあるテーマの設定に努める。

5 教育委員の自己研修	(7) 研修会の参加状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県教委や近畿圏内の教委連主催の研修会に積極的に参加し、求められる教育委員会活動をめざし研鑽に努めた。 ・ 研修会に参加し情報収集することで、国や県の動向を町の教育行政に反映するよう努めた。
6 学校および教育施設に対する支援・条件整備	(8) 学校訪問	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期に1回学校園訪問を実施し、各校園の園児・児童・生徒の状況把握に努めた。 ・ 各期の訪問は、次のテーマを設定し、指導助言を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 1 学期：学校園の経営管理計画について 2 学期：平成29年度全国学力・学習状況調査とつまずき診断テストの分析・考案と今後の取組（重点）について 子ども遊びを通じた運動・体力づくりの成果と課題について 3 学期：学校園の評価を基にした成果と課題について
	(9) 所管施設の訪問	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館、図書館については訪問することができた。 ・ 学校給食センターへの訪問は実施できなかったが、学校給食運営委員会に委員が出席した。

教育委員会が管理・執行する事務

項目	小項目	評価	点検・評価（記述）
1 教育行政の運営に関する基本方針を定めること（教育大綱を定めること）		A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当町としては、教育大綱に代わるものとして、毎年度の教育行政基本方針を充てることを第1回総合教育会議にて確認した。 ・ 事務点検評価の結果や事業指標の到達度に基づき、適正な評価、分析を踏まえた教育行政基本方針を策定した。 ・ 写真や模式図を活用するなどして見やすい方針になるよう努めた。 ・ P D C A サイクルを意識し、毎年、評価・改善・実施を繰り返して、充実に努めている。
2 教育委員会規則および規程を制定し、または改廃すること		A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所管する規則等について、法令改正等に伴う所要の整備を行った。（規則改正1件）
3 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること		B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算については、議案の原案を作成するまでには至らなかった。 ・ 教育施策に関して必要な事項については、教育委員に意見を求め、議会への上程前に協議を行うよう努める。
4 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、または廃止すること			<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に新たな設置や廃止をする事項はなかった。

5 事務局および教育機関の長の任免その他に関する事 （県費職員は除く）	A	・適切に実施できた。
6 県費負担に係る校長の任免・内申（教育長専決事項）	A	・適切に実施できた。
7 県費教職員の人事の内申に関する事（教育長専決事項）	A	・校長の具申のもと、個々の教職員の適性などを踏まえた人事異動の内申を行い、適切な人事異動が実施できた。
8 教委所管の各種委員会の委員の任免・委嘱	A	・所管の各種委員は、知見、経験、実績を踏まえ任命および委嘱し、適切に活動の展開ができた。 【資料1】参照
9 教科用図書採択の決定に関する事	A	・平成30年度小中学校の特別支援学級および小学校「特別の教科 道徳」において使用する教科用図書の採択にあたり、5月から滋賀県第3地区において教科用図書選定審議会を設け、適正に調査研究を行った資料をもとに、町教育委員会においても採択が実施できた。
10 通学区域を設定、または解除すること		・通学区域の設定および解除等については、特に問題はなく、実施をしていない。
11 請願、陳情、異議申し立てに関する事		・請願、陳情、異議申立への対応が必要な事項はなかった。

教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務
（教育行政基本方針の重点目標、重点施策に基づく事務）

項目	小項目	評価	点検・評価（記述）
1 「社会を生き抜く力」の着実な育成を図る学校・園教育の推進	(1) 家庭・地域との連携・協働による開かれた特色ある学校園づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ・竜王小学校において、引き続き学校運営協議会を設置し、学校支援地域本部との連携による地域に開かれた学校づくりの推進を行った。 ・学校支援地域本部に依頼し、授業等における支援を地域の方々に依頼したり、各校園の行事には保護者だけでなく、地域の方々へも参加の呼びかけをしたりして、開かれた学校づくりに努めた。 ・教育行政基本方針や事務点検評価等については、町HP上に掲載し、教育の方針や成果・課題等を広く住民に周知した。 ・町広報を活用した「教育委員会だより」において、学校園の様子や教育委員会の各種活動状況を中心に掲載した。 ・各学校園においては、定期的に学校園だよりを発行し、保護者、地域への啓発に努めた。 ・「竜王町教育の日」を中心として竜王町教育月間の取組を教育委員会あげて取り組んだ。特に「教育フォーラム2017」については、講師に佛教大学教授原清治氏を迎え「ネット社会と子ども達の実態」と題して、ご講演をいただいた。講演の後、原氏をアドバイザーにお願いし、社会教育委員会議の議長進行のもと、中学生、高校生、保護者等の代表者によるトークセッションを初めて開催した。現代社会に大

		<p>きな影響を与えている通信機器の利便性の裏に潜む危険性について家庭、地域で考えるきっかけとなる有意義なフォーラムとなったが、家庭や地域における主体的な取組までに広がっていないことが課題である。</p>
(2) 家庭との連携強化によるたくましく「生き抜く力」の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竜王町PTA連絡協議会と連携を図りながら、家庭教育力の向上を目指したリーフレットを作成・配布するとともに、町P連による啓発紙「家族会議の日」の配布や家庭教育の重要性について教育フォーラムやPTA懇談会等で積極的に啓発を行った。 ・ 町P連、社会教育委員会、教育委員会の共催による教育フォーラムにおいて「学力向上6カ条」と「スマートフォン、携帯電話を利用する時の親子の6カ条」を採択し、学校・家庭・地域の連携により取組を推進した。 ・ 「学力向上6カ条」と「スマートフォン、携帯電話を利用する時の親子の6カ条」を各校園や単位PTAの活動として推進した。 ・ 「家族会議の日」（町PTA連絡協議会制定）、両小学校での「ファミリー読書の日」については、啓発には努めているが、不十分なところもあり、家庭との連携強化が今後の課題である。 ・ 全国学力学習状況調査で明らかになった家庭教育の重要性について教育フォーラム等で積極的な啓発を行った。 ・ 幼小の連携を進めるうえで、両小学校区で5・5交流を積極的に実施するとともに、竜王西小学校区では4～6年生が幼稚園や保育園に出向き読み聞かせをする「にじ色おはなし隊」活動を積極的に行った。 ・ 家庭や地域の協働体制のもと「早寝・早起き・朝ご飯」運動の推進による基本的な生活習慣の確立を図った。 ・ 長期休業前には必ず生活指導の文書を配布した。また、休み明けの7日間、「りゅうたろうくんの生活リズム点検表」にて、生活習慣リズムの形成を図った。
(3) 教育課程の充実による「確かな学力」の育成と向上、文科省教育課程特例校指定による英語教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内全小中学校に町費講師を配置し、完全35人以下学級の実現（下限20人とられず、学級36～39人の場合も対象）や少人数指導を実施することで、児童生徒の学力面、生徒指導面できめ細やかな教育を実現できた。また、全国学力・学習状況調査および町教委つまずき診断テスト・生活習慣および学級内での子どもの関係性がわかるアンケートの実施と分析により、児童生徒の学力と学習状況について明らかにし、授業改善に努めた。 ・ 基礎学力については全体として概ね定着しているが、全ての児童生徒の基礎学力の定着には課題がある。また、応用力、活用力についても課題があり、一層

		<p>の授業改善に努めなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の本来業務である教材研究や児童生徒と向き合う時間を確保するため、学校における働き方改革（業務改善加速事業）に取り組んだ。各校に業務改善アシスタントを配置することで計画的に教職員の業務削減をすすめるとともに、教職員個人が勤務の状況を把握し、改善プランを共有したり、校内において会議や校務を整理・精選したりするなどして時間を確保し、学校力・教師力の向上に努めた。 ・幼小中教員を岐阜県の教育視察に派遣し、参加者による報告を教職員全員研修会で行い、竜王町教育に生かすようにした。 ・文部科学省教育課程特例校や県教育委員会指定「小中高系統的英語教育推進事業」および「小学校英語パイオニアプロジェクト事業」の指定を受け、小学校英語の教科化に向けたカリキュラムの充実と、中学校英語科の4技能の総合的な育成や言語活動の高度化について研究を行った。 ・ALT、JTEによる小学校外国語活動、中学校英語指導の改善に努めた。 ・英語検定に係る補助金制度の活用、英語スピーチ大会の開催（大会前に個別指導を実施）、姉妹都市米国ミシガン州スーセーマリー市への中学生派遣を通して英語教育や国際理解、多文化理解を推進した。 ・英語科の学力については、中学3年生において英検3級相当の能力の生徒の割合が県40%に対し、竜王町47%で全国6位相当（都道府県比較）の成果があった。 ・一方で、小学校6年生の英語力調査では、能力的には高いものの英語を学ぶ必要性についてはその意識が低いことが課題である。 ・両幼稚園における5歳児の園児を対象に、ネイティブスピーカーと英語で触れあう時間を年間10回設定した。絵を見ながら衣服や動物、色や感情など表す言葉を練習したり、歌に合わせて踊ったりしながら、楽しんで英語に触れあうことができた。今後も小学校における外国語活動との連携を意識しながら進めていきたい。 ・若手教員研修制度を導入し、各学校において概ね3年次までの若手教員や臨時講師、町費講師の授業力等、指導力の向上に努めた。 ・「学校園自主公開アピール事業」を立ち上げ、学校における主体的、組織的な研究体制づくりを支援した。平成29年度は竜王小学校と竜王西小学校を自主公開アピール事業推進校として指定した。各校では研究テーマのもと、授業改善に取り組み、講師を招聘して指導助言をいただくなどして事業の成果発表となる公開授業および研究会につなげることができた。各校においてより主体的な取組となるよう
--	--	--

		<p>工夫・改善に努めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T機器を用いた指導の充実に努め、小中学校における魅力ある授業の創造に向けた授業力の向上に寄与した。
(4) 読書活動、道徳教育、人権教育、体験活動等の充実による「豊かな心」「人としての感性」の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校に学校図書館運営員(司書)を配置し図書館の環境整備と貸出業務の促進に努めた。また、従来からの地域のボランティアによる図書館運営への継続的な協力により、子ども達の積極的な読書活動の推進に寄与した。全小中学校で、朝読書を実施しており、特に、中学校においては、毎朝、10分間静かに読書に取り組むことができた。 ・ 特別活動の充実による人権意識の高揚と、温かく支持的な人間関係づくりに関する取組を通して、差別やいじめを許さない集団づくりとその手法について実践を積み上げることができた。 ・ 人権教育推進協議会学校園部会において夏季研修会を実施し、校園の取組の報告や意見交換を行うことで研修を深めた。 ・ 毎月11日の町「人権を確かめ合う日」に合わせて各校園で工夫した取組が定着してきた。 ・ 「特別の教科 道徳」の実施に向け、授業研究や研修を実施し、授業の充実に努めたが、教科化に向けて、評価の在り方など引き続き研修が必要である。
(5) 学校園保健、体育の取組の充実による「健やかな体」の育成と「体力の向上」	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ フッ素洗口により虫歯0への取組を推進した。取組の成果として中学校3年生のう歯率は県内一の低さであった。 ・ 学校園保健委員会の活性化および学校医等との連携に努め、児童生徒の健康づくりにかかる連絡体制の強化に努めた。 ・ アレルギー対策について学校園が連携する中で、「竜王町アレルギー疾患管理の流れ」に沿った対応を行った。 ・ アレルギー対策委員会の設置に向けて早急に取り組を進めていく必要がある。 ・ 外部指導者を活用して、中学校部活動充実による体力向上に努めた。 ・ 子どもたちの運動能力向上をめざし、幼稚園および地域振興事業団と協働し、運動遊び・水遊びの体験活動を実施した。 ・ 全国ラジオ体操連盟から指導者を招聘し、両小学校でラジオ体操実技講習会を実施した。数年来継続していることで着実に成果が上がっている。
(6) 安全で安心な特色ある学校給食の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食運営委員会を年3回学期ごとに開催し、給食事業計画、学校給食事業特別会計等について審議、助言を仰ぎ、学校給食センターの適切な運営と施設の維持管理に努めた。 ・ 学校給食衛生管理基準に基づき、食材検査、施設検査、ノロウイルス等の便中検査を実施し、共同調理場の衛生管理や職員の健康管理を徹底した。また、

			<p>食中毒の未然防止、異物混入防止にも努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食主任会や献立検討委員会を定期的に開催し、栄養バランス豊かな献立や日常食生活において不足しがちな食物繊維・カルシウム・鉄分たっぷり献立を実施するなど、安全・安心でおいしい学校給食づくりに努めた。 また、成人式の懐かしの給食や高等学校PTAのお弁当づくり講習等にも協力した。 米、野菜における地場産物の使用割合は52.9%（前年度末52.8%）であったが、献立の工夫により米、野菜の他、加工品等の地場産物も積極的に取り入れるよう努めた。 びわ湖の魚を学ぶ学校給食連携推進事業（県水産課実施事業）を活用し湖魚を給食に提供し、地産地消の取組を推進した。 栄養教諭の専門的知識を活かし、学校・園とも連携しながら給食時間の食育指導や食に関する授業を計画的に行うとともに、地域の郷土料理、行事食も積極的に献立に取り入れることで、子どもたちの食べ物や食に関する感謝の心を育むことや、健全な食生活の営み、健康への関心が高まった。
	(7) 積極的な生徒指導の推進と個々に応じた特別支援教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ対応支援員の配置による未然防止・早期対応に向けた体制の充実とともに、学級集団アンケート、いじめ防止アンケートの実施による児童生徒理解と「いじめをしない・させない・見逃さない」集団づくりを進めた。 生徒指導体制の基本である「報告・連絡・相談」を徹底し、全教職員が子どもの安心安全を守るためのアンテナを高め、各校園において未然防止、早期発見、早期対応を図った。 小中学校3校への特別支援教育支援員と幼稚園への特別支援教育加配の配置により、一人ひとりの障害の状況や発達段階に応じた適切な支援を行うとともに、特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援教育支援員研修会、教職員全員研修会において講師を招いて講義を行い、指導者としての専門性を高めた。 ふれあい相談発達支援センターとの連携により、特別支援教育の充実に努めた。 インクルーシブ教育の充実を目指し、その教育理念を具現化するために、引き続き研修をしていく必要がある。 就学支援委員会による答申を踏まえた就学が難しくなっている。保護者への十分な情報提供と関係者が一人ひとりの児童生徒に寄り添い、将来を見据えた就学支援を進めていく必要がある。 学校と連携して、SSWを中心に不登校児童・生徒に対し、継続性のある計画的な取組が展開できた。 いじめ問題については、「竜王町いじめ等対策協議

			会」を設置し学校の取組指針と取組の報告などを実施した。
	(8) 通学路の安全確保と生命尊重に基づく安全教育、防災教育の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時を想定した保護者への引渡訓練を竜王幼稚園と竜王小学校で行い、学校だけでなく保護者も危機管理と防災への意識を高めることができた。なお、竜王西幼稚園と竜王西小学校でも隔年で引渡訓練を実施しており、引き続き子ども達の安全確保に取り組む。 ・各学校園における年度はじめの安全教育の実施や、自転車通学の指導、PTAによる早朝の登校指導、スクールガード、子ども110番のお家の継続した取組等を実施した。 ・小学生の下校時の交通事故、中学生の自転車通学時の交通事故が数件発生した。交通安全については、重要課題として位置付け、継続した取組を進めていかななくてはならない。 ・携帯メールでの情報発信システムにより、不審者情報、交通情報等を速やかに保護者に伝えることで、安全確保につなげた。しかし、悪質な不審者に対応できるような実効性のある訓練については課題があり、各校園への指導助言に努めたい。 ・おうみ通学路アドバイザーが、毎日の子どもたちの通学を見守ったり、危険箇所点検にも加わったりして、通学路の安全確保に努めた。 ・PTA等からの通学路改善要望に対しては、関係各課や県東近江土木、警察、おうみ通学路交通アドバイザー等と連携する中で通学路合同点検を実施し、優先度の高いものから逐次改善を行ったが、全ての要望に対応することは出来なかった。
	(9) 教育施設および教育環境の計画的な整備と充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・西小学校敷地の地盤沈下への対応として、前年度からの繰越事業と位置付け改修工事を行い、復旧できた。 ・コマツキャブテック(株)寄贈により両幼稚園に大型木製遊具(大型つみき)を整備した。幼児の安全を十分に考慮しつつ遊びの充実を図ることができた。 ・老朽化が進む竜王小学校を始めとした教育施設の今後のあり方を検討するため委員会を立ち上げ、3回の会議を開催することができた。
2 子育て支援の充実と青少年の健全育成の推進	(1) 就学前教育としての幼児教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領に基づく遊びや体験を通して、発達段階に応じた基本的な生活習慣や豊かな感性と道徳性の芽生えを培うことを重視した教育を一層推進するとともに、幼稚園教育全体の充実を図った。 ・公民館の補助事業として、幼稚園の保護者を対象にした家庭教育講座への経費の一部について支援を行った。
	(2) 3歳児預かり保育および預かり保育時間の	A	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の竜王幼稚園の預かり保育については、通年の利用人数は29人で全体の25%であった。一方、西幼稚園の通年の利用人数は36人で全体の44%であった。

<p>延長等、幼稚園預かり保育の充実による子育て支援の推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度と比べて通年利用数は遡増傾向である。また、両園とも一時預かり保育の利用者が年々増加傾向にあり、一時預かり保育を有効に活用する保護者が増えてきていることから、預かり保育が定着し子育て支援の一翼を担っていると考えられる。 今後は、預かり保育の更なる充実に向けて検討する必要がある。
<p>(3) ふれあい相談発達支援センターとの連携による相談支援活動の充実</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 発達に課題のある子どもの早期発見のため、校園や発達支援課と連携しながら、さらに支援を充実できるように努めた。 不登校状態にある児童・生徒の自己実現に向けて保護者との協力関係を構築し、学校など関係機関と連携しながら、きめ細かな取組を行った。 発達支援課と協働で高等学校等への訪問を通し、高等学校との連携を強化し、町内在住生徒の支援を早期に実施することができた。 従来の就学指導委員会から就学支援委員会へ名称変更し、支援を主体とした子どもや保護者への支援体制を整え、支援の充実に努めた。 特別支援教育推進協議会(学校教育課)と発達支援代表者会議(発達支援課)を年間2回実施した。 2回目の会議では保護者代表の意見を聞き、保護者の視点での校園や関係機関の支援について見直すことができた。
<p>(4) 家庭教育の充実を図る啓発、支援活動の展開</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から新たに社会教育委員会が主催者に加わり町PTA連絡協議会、教育委員会による「町教育フォーラム」を開催し、スマホの功罪を考えることで、家庭教育の充実に向けた啓発に取り組んだ。 フォーラムを踏まえた具体的な実践行動に係る取組が十分に出来なかった。 単位PTAでは、子育て親育ちのための研修会を実施した。
<p>(5) 青少年活動の支援および青少年健全育成の推進</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 町子連、町スポ少の本部活動への積極的な指導および助言を行った。 弱体化が著しかった町青年団へ寄り添いながら継続して支援を行った。結果として、広報の隔月発行や新たな自主事業を企画実施するまでに復調してきたものの、団員数の大幅な増加はなく、組織の建て直しは道半ばであり、引き続きの支援が必要である。 青少年育成推進員を配置し、「少年の主張大会」、各校園での「あいさつ運動」、町内巡回パトロールなど青少年健全育成の支援事業を推進した。 町少年補導員会の4班体制による毎月の巡回パトロールを実施した。 近江八幡竜王少年センターの指導員1名を竜王町に配置し、巡回パトロールや相談業務対応に努めた。しかし、相談については来所者はなかった。 関係機関と連携し少年の非行防止に努めた。

<p>3 生涯学習の推進と次代への継承をめざす文化財保護の推進</p>	<p>(1) 学校支援地域本部事業と公民館の連携による地域づくりや人材育成</p>	<p>S</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域に開かれた学校づくり」の趣旨に沿って幼小中に対して、公民館に設置した学校支援地域本部からボランティアの派遣に努めた。 ・学校支援地域本部に統括マネージャーとコーディネーターを置き、学校とボランティアの調整や推進を行った。 ・年間2回、学校支援地域本部広報紙を発行して全戸に配布し、町民への周知と活動参加への啓発を行った。 ・高齢者（シニア層）だからこそできる地域社会への貢献機会の創出を意識しつつ「学校支援地域本部事業」に積極的に取り組むことにより、地域を生かし地域に生かされる高齢者活動が推進できた。 ・学区を超え、全町を対象に支援本部を町公民館に設置し、広くボランティア人材を募ったことにより、学校支援の分野が広がると共に支援層に厚みが増し活動が充実した。 ・学区にこだわらず全町を対象とした支援本部設置は、竜王方式の学校支援として国も注目し、今後における学校支援地域本部の新しい取組の全国版モデル事例集に掲載される等の評価を得た。 ・地域ボランティアは高齢者が多いため、発足時からの人員が少しずつ減少してきた。そのため、新たなボランティアの加入推進を進めている。 ・平成30年度から学校支援地域本部が地域学校協働本部となる。本部活動の持続性を高めるためには、より能動的（自主的、自立的）に支援活動が展開されるように体制を整える必要がある。 <p>平成29年度実績</p> <p>*ボランティア実質活動者数 121名</p> <p>*支援分野（内容）</p> <p style="padding-left: 20px;">行事（託児、おやつづくり、田んぼの子等）</p> <p style="padding-left: 20px;">学習（家庭科、社会科、クラブ活動、スキー教室、本の読み聞かせ等）</p> <p>*学校別支援回数と参加延べ人数 200回 660名</p>
	<p>(2) 公民館基本計画を踏まえた教室、講座の充実</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体や自主文化活動グループ等の利用者をはじめ、各種行事への参加者等、町民に身近な施設として活用された。 <p>来館者数 目標：50,000人以上 ⇒ 実績：67,231人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館講座「ドラゴンカレッジ」 <p>一般や高齢者対象の「ドラゴンカレッジ」を充実させ、講座受講生を自主文化活動グループ発足へ繋げる取組を行った。</p> <p>開講講座7講座 受講生123名</p> <p style="padding-left: 20px;">（木彫り、おり紙、園芸、つるし飾り、ちぎり絵冠句、ネイチャー）</p> <p>平成29年度に自主文化活動グループとして発足したグループ 2グループ</p> <p style="padding-left: 20px;">切り絵講座→竜王切り絵クラブ</p>

			<p>花むすび講座→竜王花むすびサークル また、各講座（受講者）が豊富な知識と経験を活かせる場をコーディネートした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「竜王キッズクラブ」 子どもたちが遊びや体験活動を通して、異年齢および地域の人々との交流を深め、仲間づくりに繋がり、さらに、各コースでの技能を伸ばすこと等を目的に開講した。 開講クラブ 6クラブ 受講生100名 和太鼓、クッキング、書道、サイエンスクラブ チャレンジ、ユースプラス（吹奏楽教室） キッズフェスティバル 167名 ・「夏休み・冬休み・春休みキッズスクール」 学校と連携し長期休業期間中に児童の学習習慣と基礎学力の定着、さらには、一層の学力伸長の一助として開催した。 ※夏休み：16日間 延べ2,360名 ※冬休み：5日間 延べ 421名 ※春休み：4日間 延べ 372名 ・「青年学級」 演劇コース コース員 10名 人形劇コース コース員 11名 滋賀県青年大会 演劇コース 努力賞受賞 人形劇コース 最優秀賞受賞 全国青年大会 人形劇コース 努力賞受賞 青年学級祭 12月10日 地域への出前公演（自治会や竜王町立図書館など） ・「漢字検定試験」 住民の生涯学習の機会をの拡充および子どもたちの学力向上と客観的評価による向学心の維持・高揚をめざして行った。 漢字検定試験 3回/年 受験者110名
	(3) 第2期図書館基本計画、第2次竜王町子ども読書活動推進計画に基づく図書館の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期竜王町立図書館基本計画に基づく平成29年度の個人貸出冊数は132,577冊で、住民1人当たりの貸出冊数は10.9冊となった。 ・両小学校の各クラスに学級文庫として学期毎に団体貸出を行った。 ・予約（所蔵資料に対する取り置き）および未所蔵資料に対するリクエストの数は4,223件、その内Web予約（館内利用者用端末からの予約も含む）は1,708件であった。 ※貸出総数 個人 132,577冊 団体 7,352冊 他図書館へ 424冊 ・展示コーナーの活用は13回、図書館のテーマ展示は、玄関ホールをはじめ館内の各所で随時実施した。町行事や庁内の各課、また県の取組などと連携しての展示を実施し、啓発パンフレット、ポスターと図書館所蔵の資料を並べることで、来館者の関心を惹く

		<p>よう工夫をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの資料相談やレファレンスに対応し、必要な資料について提供をした。 ・図書館ホームページにて、事業の案内や新着書等の情報を発信した。また、「としょかんだより」を月1回発行し、館内配布のほか、町内全自治会に配布した。 ・学校児童向けの「としょかんだより」、またティーンズ（中・高校生向け）のとしょかんだより「つれづれ通信」を発行し、児童、生徒に図書館利用を呼びかけた。 ・視聴覚ライブラリー運営委員会を開催し、地区懇等で利用が見込まれる人権啓発用DVDの試写会および教材の選定を行った。また、機材、教材（ビデオ・DVD）の貸出を行った。 ・「第2次竜王町子ども読書活動推進計画」に基づき、本や図書館に親しんでもらうために、子どもへのサービスを強化した。 ・図書館に来館するきっかけづくりとして、ライブラリーコンサートや公民館青年学級による演劇・人形劇発表会をはじめ作品展示、各種事業を行った。このことにより、普段、図書館にあまり来られない方が来館された。【資料11】参照 ・小学校への月1回の出前貸出とともに、学校に出向いてのおはなし会やブックトーク（各クラス年1回）を継続実施するとともに、竜王幼稚園、中学校でも年3回（学期毎1回）の出前貸出を実施した。 ・幼稚園、保育園への出前おはなし会を定期的を実施した。 ・学校図書館司書と随時情報交換を行い、学習に必要な資料を手配し提供するなど、学校や学校図書館との連携を図った。また、各校の学校図書館司書と図書館職員が集まり、学校図書館と図書館、また学校図書館同士が広く意見交換する「図書館・学校図書館連絡会」を平成29年度初めて開催した。 ・ボランティアと協働でのおはなし会の開催や、団体貸出、情報交換を通じて情報共有を図り、子どもたちの「読書の日常化」に努めた。 ・「おはなし会（毎週土曜日）」、「おひぎでだっこのおはなし会（毎月第1、3木曜日）」を実施した。 ・地域へ出向いての出前おはなし会を行った。（2地区） ・「ブックスタート事業」の継続実施に努めた（絵本引き換え者84人）。また、1歳6ヶ月までに引き換えのなかったお子さん（保護者）に対して、1歳6ヶ月時健診の場を利用し事業を実施した。 ・県内図書館での図書館員専門講座、近畿公共図書館協議会研究集会等に参加し、職員の資質向上を図った。
--	--	--

<p>(4) 社会教育 団体活動支援および地域づくり人材の育成と指導者の養成</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館講座「ドラゴンカレッジ」では人的な裾野の広がりが見られ、自主文化活動グループへの立ち上げに向けた活動を行った。今後は更に魅力ある活動展開がされ地域活動に生かされるようにコーディネートすることが大切である。 ・ 社会教育関係団体育成および支援として、15団体に補助金を交付し、意欲的な活動となるよう支援した。 【資料2】参照 ・ 以前は80の自主文化活動グループが活動していたと聞くが、減少傾向である。今後どのような取組をしていくか課題である。 ・ 以前、生涯学習課や公民館では、地域づくりのリーダー育成の講座が開講されていたが、現在行われていない。復活させる必要がある。 ・ 人材育成の分野で一番弱いのが、キャンプ指導、自然観察指導などの野外活動指導者である。公民館職員に社会教育主事資格の職員を配置し、この分野での人材育成指導の充実とキッズクラブの工作、自然観察、野外活動等の活動を充実が求められる。 ・ 以前、竜王町（生涯学習課、公民館）では青少年のリーダー育成が盛んに行われており一定の成果があったが、今はほとんど行われていない。これからの地域づくりには若い力が必要であり、青年リーダーの育成が必要である。
<p>(5) 文化芸術 活動の奨励と振興</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年に一度の町文化祭を「地域に活力と賑わいを創出する催し」と位置付け、初めてのイルミネーション装飾により幻想的な華やぎを演出し来館者に好評を得た。また、町文化協会発足40周年記念式典については、洛南高校吹奏楽部を招聘した記念公演も奏功し、多くの参会者のもと盛会裏に挙行された。 ・ 竜王町文化協会との連携により、文月発表会・文化祭を開催した。創作活動の成果を発表し、優れた魅力ある作品を鑑賞することで、創る人と鑑賞する人との出会いの場を創出した。 今後においても、文化協会と継続した連携を行い、町民が主体的に文化芸術活動を進められるような文化の振興につなげる必要がある。 ・ 公民館交竜フロア展示ケースを活用し、毎月1種類展示、年間12種類の展示を行い、町民の文化芸術への関心の喚起を行うと共に、文化教養の向上に努めた。 ・ 公民館ホームページ内のブログが十分活用できず、タイムリーに公民館情報を発信できなかった。 ・ 館内掲示施設を活用し、教室の受講生の作品や自主文化活動グループの作品を定期的に展示発表し、来館者の鑑賞など「成果の発表とその評価の機会提供」により作者のやりがい創出に努めた。 ・ 桃の節句に合わせて、「公民館フェスタ～竜王のおひなさん～」を開催した。住民の方々から提供いた

			<p>だいた雛飾りを公民館に展示し、さらに「つるし飾り講座」で作成した「つるし雛」を上からつるして華やかさを演出した。多くの方に鑑賞してもらえた。</p>
(6) 文化財保存活動の推進および地域の歴史に親しむ機会の提供	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国選択無形文化財ケンケト祭りの保存・継承活動を行う保存団体（山之上薙刀祭保存会）に対し、一部活動費の助成を行った。【資料5】参照 ・国史跡雪野山古墳、西光寺跡遺跡、オウゴ古墳、県指定史跡雨宮古墳の除草作業等の環境整備を実施した。【資料4】参照 ・国指定文化財（建造物・美術工芸品）の防災施設設置・管理・小修理等の経費を一部助成した。【資料5】参照 ・勝手神社（岡屋）の消火設備更新、龍王寺（川守）の防災事業（倒壊危険樹木の伐採等）への経費の補助を行った。 ・町内を3地区に分け、文化財巡視員による月一回の巡視により町内における指定文化財の保存状況の把握に努めた。【資料1・4】参照 ・文化財に対する防火意識の高揚を目的に、関係機関と連携し、文化財防火デーポスター等を配布して啓発に努めた。 ・開発等による「文化財保護法」第93条および「竜王町開発行為等に関する指導要綱」第2条および第5条の規定に伴う埋蔵文化財試掘調査を11件実施した。 ・発掘調査等により得た埋蔵文化財資料を活用し公開講座や体験学習等を実施した。併せて、学校や関係機関（図書館・公民館）と連携を図り、地域学習へのサポートを実施する等、普及啓発を行ったが、講座等受講者に固定化がみられ、今後、より多くの方々に歴史への興味関心を抱かせる工夫が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ①埋蔵文化財（資料）を活用した公開講座等 <ul style="list-style-type: none"> *りゅうおう歴史文化講座 全2回 71人参加 *子ども歴史体験学習 全1回 44人参加 *「竜王鏡山ハイキング」【資料6】参照 *ブタイ遺跡速報展示(公民館・図書館・町民室) ②出前事業等 <ul style="list-style-type: none"> *中学生勤労体験受け入れとして、埋蔵文化財に係る作業体験（史跡除草・展示物整理）を実施した。【資料6】参照 ・鏡仁王堂石造金剛力士像について文化財保護審議会に町指定文化財に向け付議したが、委員からその指定基準に足る根拠について一層の調査が求められたことから、今後、彫像課程や歴史的背景について調査を深める予定である。 	

4 「あらゆる差別のない明るく住みよいまちづくり」をめざす人権教育の推進	(1) 人権尊重のまちづくりの推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区別懇談会を全32地区で開催した。参加者総数980人と前年より348人減少した。 ・ 各区男女共同参画集会は15地区で単独開催され単独開催区数は前年度と同数。 ・ 人権教育推進協議会事務局として、未来創造課（人権行政）および商工観光課（企業内人権）と連携し、行政、企業、住民を対象に人権学習機会の提供と内容の充実に努めた。 ・ 平成29年度の取組は結果としては良好であるものの、更なる充実が求められる。
	(2) 学校園、地域、行政の緊密な連携	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育推進協議会学校園部会では、機関誌「こころ」を通じて竜王の学校園の人権教育について啓発に努めた。 ・ 8月に全教職員対象に人推協学校園部会研修会を開催し、レポート提案をもとに校種間交流を深めた。 ・ 滋賀県人権教育研究大会に参加した。（レポート報告：学校教育1本） ・ 夏季休業中に、各校で人権・同和問題研修会を開催し、10月には、人権教育推進に関する教育委員会訪問を行い、人権学習の研修を深めた。
	(3) 人権意識の高揚に向けた効果的な取組	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地区人権教育推進員、社会教育推進員と行政職員で組織する啓発推進員を対象に合同研修会を開催し、各地区の地区別懇談会の推進を図った。 ※参加者数122名（昨年度102名） ・ 外国人の人権をテーマに「じんけんを考えるみんなのつどい」を開催し、「共に生きるしゃかいをめざして」を演題に京都朝鮮歌舞団の講演により在日韓国人の方々の人権について考える機会をもった。また、手話劇での啓発に取り組んだ。 ※参加者数306名（昨年度319名） ・ 「人権啓発セミナー」を5回シリーズで開催し、研修・啓発の機会提供と内容の充実に努めた。しかし、受講者の多くを町職員や教職員が占めており、一般町民の受講（参加）に向けた啓発が課題である。 ※のべ参加者数437名(昨年度359名)【資料7】参照 ・ 平成26年3月に策定した「竜王町人権教育・啓発基本方針」にもとづき、各種研修機会等で参加者の目標数値と達成度合を掲げると共に、アンケートを実施して、その結果を踏まえてPDCAサイクルを回すことにより、以降の学習機会では町民の意見を反映させ、方針のめざす姿に向け具現化に努めた。 ・ 9つの人権課題に関して、人権啓発セミナー等で取り組むように計画した。 ・ 基本方針の具現化に向けて、庁内、職員、教職員、町民、学校園、家庭、地域、企業、各種団体の分野別取組を推進した。
5 「スポーツの日常化」をめざした健康	(1) 町民の健康体力向上に向けたス	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校体育施設および社会体育施設を一般開放した。 ※利用者のべ35,376人【資料8】参照 ・ 町体育振興協会と連携して総合体育大会および元旦

<p>体力づくりの推進</p>	<p>スポーツ活動の展開</p>	<p>マラソンを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合体育大会 (ソフトボール:14チーム197人、ビーチボール男子:9チーム46人、ビーチボール女子:2チーム10人、ビーチボール混合:11チーム59人、ゲートボール:17チーム102人、グラウンドゴルフ:56チーム376人、弓道:20人、ゴルフ:19人、ニュースポーツ:5チーム29人(延べ参加者858人)【資料9】参照 ○元旦マラソン(H29:254人、H28:235人) ・日頃、気軽に取り組める運動から健康体力向上に繋げるため、「健康体力づくりセミナー」を開催した。 【資料10】参照 ・スポーツ推進委員を通じて、地域や団体の要請に応じ、ニュースポーツやラジオ体操等を指導した。 【資料10】参照
	<p>(2) 運動習慣の定着に向けたラジオ体操、ウォーキングの普及</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング普及のため、スポーツ推進委員会と連携し、地域への出前講座やウォーキング事業を実施したが、広がりには課題がある。(年4回:5/27、9/30、11/3、3/10)【資料10】参照 ・ラジオ体操の町内普及をめざし、町ホームページや広報へ掲載、全国ラジオ体操連盟から講師を招聘し、両小学校で全小学生を対象に実技講習会を実施した。【資料10】参照 ・スポーツ推進委員会と連携し、ラジオ体操の出前講座を実施した。【資料10】参照 ・夏休み期間中に各地域でラジオ体操会の実施を推進するため、区長を始め、社会教育推進員、社会体育推進員、子ども会連合会役員に対し、啓発資料・啓発資材等を事前に配布し、ラジオ体操会の継続実施を依頼した。(32地区開催) ・運動習慣の定着化に向けてラジオ体操とウォーキングの普及に継続して取り組んでいるが、もう一步、盛り上がりには欠ける。更なる高みをめざした取組を創出していきたい。
	<p>(3) 国体競技の誘致による競技スポーツの振興</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年滋賀国体で、スポーツクライミング競技の開催地が竜王町に内定した。 ・スポーツクライミング、特に、ボルダリングを町のシンボルスポーツと位置付けたものの普及啓発は不十分に終わった。今後の積極的な推進が課題である。 ・地域振興事業団の協力を得て、町総合運動公園の施設内にボルダリングウォールを設置した。 ・平成29年度中のボルダリングウォール利用者は、5,000人に及んだ。(H29.6～H30.3)

資 料

別表 1 . . . 教育委員会および案件
総合教育会議および案件

別表 2 . . . 教育委員の研修状況

資料 1 ～資料 1 1

平成29年度竜王町教育委員会定例会および臨時会案件一覧

4月19日	【定例】	竜王町社会教育委員の委嘱について 竜王町文化財保護審議会委員の委嘱について 竜王町学校給食運営委員会委員の任命について 竜王町立学校(園)医・学校(園)歯科医・学校(園)薬剤師の委嘱について 竜王町学校結核対策委員会委員の委嘱について 竜王町特別支援教育推進協議会委員の委嘱について 竜王町就学前教育協議会委員の委嘱について 竜王町いじめ等対策協議会委員の委嘱について 竜王町就学支援委員会委員の委嘱について 竜王町学校園保健委員会委員の委嘱について 竜王町通学自動車運営委員会委員の任命について 竜王町視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について 平成29年度教育委員会部局事務分掌について 平成29年度幼・小・中学校の園児・児童生徒数について
5月26日	【定例】	竜王町立図書館協議会委員の任命について 竜王町立幼稚園幼稚園評議員および竜王町立学校学校評議員の委嘱について 竜王町立竜王小学校学校運営協議会委員の任命について 平成29年度第1回総合教育会議について
	学校訪問 (1学期)	竜王小学校
5月30日	学校訪問 (1学期)	竜王幼稚園
6月23日	【定例】	平成29年度竜王町児童・生徒就学援助費給付家庭の認定について 平成29年度竜王町教育委員会の権限に属する事務の管理および執行状況の点検・評価(平成28年度点検・評価)について
	学校訪問 (1学期)	竜王中学校、竜王西小学校、竜王西幼稚園
7月28日	【定例】	竜王町立学校の管理運営に関する規則の一部改正について 平成29年度竜王町教育委員会の権限に属する事務の管理および執行状況の点検・評価(平成28年度点検・評価)について
8月24日	【定例】	平成30年度使用学校教科用図書採択について 平成29年度竜王町児童・生徒就学援助費給付家庭の認定について 平成29年度竜王町教育委員会の権限に属する事務の管理および執行状況の点検・評価(平成28年度点検・評価)について
9月26日	【定例】	平成30年度竜王町立竜王幼稚園および竜王西幼稚園園児募集要項について 平成29年度全国学力・学習状況調査について 平成29年第3回竜王町議会定例会について
10月20日	【定例】	竜王町立図書館協議会委員の任命について 第38回竜王町文化祭について 教育フォーラムの開催について 平成29年度第2回総合教育会議について
11月7日	学校訪問 (2学期)	竜王西幼稚園
11月10日	学校訪問 (2学期)	竜王小学校、竜王西小学校

11月22日	【定例】	平成29年度竜王町児童・生徒就学援助費給付家庭の認定について 竜王町教育施設あり方検討委員会について
12月11日	学校訪問 (2学期)	竜王中学校・竜王幼稚園
12月22日	【定例】	平成30年度使用教科用図書の採択について 平成30年度竜王町児童・生徒就学援助費給付家庭の承認について 平成30年度教育委員会の組織体制ならびに4月1日付人事異動に関する基本方針(案)について 平成29年第4回竜王町議会定例会について 平成29年度第3回竜王町総合教育会議について
1月23日	【定例】	平成29年度竜王町児童・生徒就学援助費給付家庭の承認について 平成30年度採用竜王町教育委員会嘱託・臨時職員募集について 平成30年度竜王町教育行政基本方針の策定について 平成29年度第3回総合教育会議について
	学校訪問 (3学期)	竜王小学校
2月20日	【定例】	平成30年度竜王町教育行政基本方針(案)について
	学校訪問 (3学期)	竜王幼稚園
2月27日	学校訪問 (3学期)	竜王中学校
3月6日	学校訪問 (3学期)	竜王西幼稚園・竜王西小学校
3月22日	【定例】	平成29年度末竜王町立学校教職員の人事異動について 平成30年第1回竜王町議会定例会の提案事項について

平成29年度竜王町総合教育会議		
6月28日	【第1回】	平成29年度 竜王町教育行政基本方針について 平成29年度における英語教育の取組について スポーツライミングの普及と啓発について 意見交換
11月22日	【第2回】	竜王町に求められる子育て支援と家庭教育のあり方 今後の竜王町の青少年健全育成について 意見交換
2月20日	【第3回】	今後求められる就学前教育の姿について 意見交換

教育委員の研修状況（研修会の参加状況）

○滋賀県教育行政重点施策説明会・滋賀県市町教育委員会委員研修会

と き：平成29年4月7日（金）14：00～

ところ：滋賀県庁 東館

内 容

- ・平成29年度 滋賀県教育行政重点施策等の説明
- ・市町施策説明および意見交換

○平成29年度 第61回滋賀県町村教育委員会連絡協議会総会

と き：平成29年6月26日（月）10：00～

ところ：ホテルピアザびわ湖（大津市）

内 容

- ・全国市町村教育委員会連合会定期総会表彰の伝達（岡谷ふさ子氏 表彰）
- ・全国町村教育長会定期総会 教育功労者表彰の伝達（岡谷ふさ子氏 表彰）
- ・滋賀県町村教育委員会連絡協議会 教育功労者表彰（岡谷ふさ子氏 表彰）
- ・協議会の平成28年度事業報告・決算報告、平成29年度事業計画・予算案
- ・講演「ネット社会と子どもたちの実態」

佛教大学教育学部 教授

京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 原 清治 氏

⇒ 直接型のコミュニケーション機会を増やし、ネット社会への依存を抑えていくことの大切さについて、講師の研究実績を踏まえて講演された。

○平成29年度近畿市町村教育委員研修大会

と き：平成29年10月24日（火）

ところ：和歌山県紀の川市粉河ふるさとセンター

内 容

- ・講演「発達障害のある子どもと向き合う」

叱らないけど譲らない支援

和歌山大学 教育学部 教授 武田 鉄郎 氏

⇒ 子どもが「できない」「わからない」「認めてほしいけど…」など立ち往生したときに、子どもの主体性や自主性を重んじ、同時に、その子どもに寄り添う状態で子どもが「選択」できる状態を設定し、指導する方法（提案・交渉型アプローチ）について講演された。

○「竜王町教育フォーラム2017」

と き：平成29年11月18日（土）

ところ：竜王町公民館 ホール

内 容

- ・オープニングセレモニー 竜王ユースプラス発表
 - ・講演「ネット社会と子ども達の実態」 佛教大学 教授 原 清治 氏
 - ・中高生を交えてのトークセッション
- 「スマートフォン、携帯電話を利用する時の親子の6カ条」の宣言

【資料1】教育委員会所管各種委員会

(1) 生涯学習課所管各委員数

委員名	員数	会議数	備考
社会教育委員会議	10名	3回	
少年補導員会	11名	12回	
文化財保護審議会	5名	1回	
スポーツ推進委員会	13名	12回	
青少年問題協議会	17名	1回	
図書館協議会	9名	3回	
視聴覚ライブラリー運営委員会	8名	1回	
文化財巡視員	3名	巡視月1回	
社会教育推進員（各地区）	32名	2回	
社会体育推進員（各地区）	32名	1回	
人権教育推進員（各地区）	32名	2回	

(2) 教育総務課 および 学校教育課所管各委員数

委員名	員数	会議数	備考
竜王小学校学校運営協議会	15名	6回	
幼稚園評議員 および 学校評議員	22名	12回	
学校園保健委員会	19名	2回	
学校結核対策委員会	8名	1回	
特別支援教育推進協議会	13名	2回	
就学支援委員会	23名	3回	ワーキング部会数回
就学前教育協議会	14名	1回	
通学自動車運営委員会	7名	1回	
竜王町いじめ問題対策連絡協議会	17名	2回	
チャレンジウィーク実行委員会	10名	2回	
学校給食運営委員会	13名	3回	
教育委員会事務評価委員会	3名	2回	

【資料2】社会教育関係団体補助金

①竜王町青年団、②竜王町壮年会、③竜王町エルダー婦人会、④竜王町文化協会、⑤竜王町体育振興協会、⑥竜王町子ども会連合会、⑦竜王町青少年育成町民会議、⑧竜王町人権教育推進協議会、⑨竜王町スポーツ少年団、⑩竜王幼稚園PTA、⑪竜王西幼稚園PTA、⑫竜王小学校PTA、⑬竜王西小学校PTA、⑭竜王中学校PTA、⑮竜王町高等学校PTA連絡協議会 以上15団体

【資料3】竜王町内指定文化財件数

区 分	H 2 9 年度	H 2 8 年度	H 2 7 年度
国指定文化財	2 2 件	2 2 件	2 2 件
滋賀県指定文化財	3 件	3 件	3 件
竜王町指定文化財	1 9 件	1 9 件	1 9 件

【資料4】文化財保存活動事業

- (1) 町内指定文化財の巡視（月1回 北部・中部・南部）
- (2) 文化財環境整備
 - ①国史跡雪野山古墳、②西光寺遺跡、③オウゴ古墳、④県指定史跡雨宮古墳、⑤国史跡雪野山古墳

【資料5】文化財保存事業費補助

- (1) 国指定文化財（建造物）防災施設管理・小修理事業への一部助成≪宗教法人苗村神社・宗教法人鏡神社・宗教法人勝手神社≫
- (2) 国指定文化財（美術工芸）防災施設管理事業への助成≪宗教法人浄満寺≫
- (3) 国選択無形民俗文化財 ケンケト祭保存活動への助成≪山之上薙刀祭保存会≫
- (4) 国指定重要文化財 勝手神社本殿 防災事業への助成
- (5) 国指定重要文化財 龍王寺十二神将立像、梵鐘 防災事業への助成

【資料6】文化財普及啓発事業

- (1) 発掘調査等により得た埋蔵文化財資料を活用した公開講座や体験学習等の実施
 - *りゅうおう歴史文化講座「古代の役所と寺院」（2回）
11/11、12/10 受講者総数71名(町内47%)
 - *子ども歴史体験学習 「昔の人たちのワザを知ろうーまが玉づくり」
8/21 まが玉づくり 参加者44名
 - *「～風土千年～竜王鏡山ハイキング」 11/25 参加者28名
 - *ブタイ遺跡調査成果報告会 12/10 参加者25名

*ブタイ遺跡発掘調査速報展示…出土遺物・写真パネルの展示

竜王町立図書館 11/11～12/10 図書館展示コーナー

竜王町公民館 12/13～12/28 交竜フロア展示スペース

町役場町民室 1/5～1/31

(2) 「埋蔵文化財」についての理解普及に向けて、学校や関係機関と連携しつつ、地域学習へのサポートを実施

*竜王中学校勤労体験学習受入れ 10/4

県史跡雪野寺跡 塔跡整備作業、妹背の里 展示物整理・清掃

【資料7】人権啓発セミナー

第1回「今、小中学生が学んでいる部落史学習とは」(参加者96名)

講師 草津市立草津小学校 校長 糠塚 一彦さん

第2回「忘れても 心は生きている 認知症」(参加者111名)

講師 のどかの家高木 代表理事 田中 ふじ江さん

第3回「ひとりももれなく子どもの笑顔が輝く町に

～滋賀の子ども食堂の活動から見えてくること～」(参加者107名)

講師 滋賀の縁創造実践センター 所長 谷口 郁美さん

第4回「ネット社会の落とし穴と人権問題」(参加者97名)

公益財団法人滋賀県人権センター 松浦 広明さん

第5回 現地研修ツラッティ千本・立命館大学国際平和ミュージアム(参加者26名)

全5回 のべ参加者数437名(昨年度359名)

【資料8】学校体育施設および社会体育施設開放利用者数

(1) 学校体育施設開放利用者数(昨年度 利用者数 29,817人)

施設名	利用日数	利用人数
竜王小学校グラウンド(学校施設開放)	101日	5,150人
竜王西小学校グラウンド(学校施設開放)	104日	6,355人
竜王小学校体育館(学校施設開放)	191日	6,306人
竜王西小学校体育館(学校施設開放)	240日	7,844人
竜王中学校体育館(学校施設開放)	315日	5,086人
5施設合計	951日	30,741人

(2) 社会体育施設開放利用者数(昨年度 利用者数 5,777人)

施設名	利用日数	利用人数
竜王町立武道交流会館	190日	4,635人

【資料9】総合体育大会参加者数

7種目：858人（昨年度 7種目：834人）

- ①ソフトボール：14チーム197人
- ②ビーチボール 男子：9チーム46人、女子：2チーム10人、混合：11チーム59人
- ③ゲートボール：17チーム102人
- ④弓道：20人
- ⑤ゴルフ：19人
- ⑥グラウンドゴルフ：56チーム376人
- ⑦ニュースポーツ（キックベース）：5チーム29人

【資料10】健康体力づくりの推進

(1) ラジオ体操普及啓発事業

- ①ラジオ体操実技講習会（竜王小学校、竜王西小学校） 5/11 参加者：760人
- ②夏休みラジオ体操会の推進 各地区20日間の実施
- ③山面地区レクリエーション大会 ラジオ体操実技指導 6/4
- ④町老人クラブレクリエーション大会 ラジオ体操実技指導 6/22
- ⑤町子ども会親子球技大会 ラジオ体操実技指導 8/6

(2) 健康体力向上事業

- ①健康体力づくりセミナー（ZUMBA） 8/19 9/23 10/14 12/2 延べ206名
- ②レッツ・エンジョイ・ウォーキング 5/27（12名） 9/30（23名） 11/3（8名） 3/10（21名） 延べ64名

(3) 子どもの体力向上事業

- 子どもの体力向上研修会 ○運動遊び 10/16、12/4、12/13、2/19
○水遊び 6/23、6/30、7/4、7/6、7/11、7/13、7/14

(4) 地域団体の活動への支援

- ①子ども会等各種団体
6/17 子ども会 ドッジビー事前説明会
8/6 子ども会 ドッジビー大会
- ②小・中学校PTA活動支援
西小PTA ひびきあい活動 2/8（4年生）キネット《学年閉鎖のため中止》

【資料11】図書館の充実

(1) 催し物

月日	内 容
7/9	トンボの観察会（23人）
8/13	かんたんたのしい親子絵本づくり教室（27人）
8/19	夏休み工作教室（6人）
8/20、8/24	夏休み一日子ども図書館員（2人、2人）

12/2	混声合唱団R Y U O合唱コンサート「コーラスの夕べ」(25人)
12/3	自然教室「親子水鳥観察会」(18人)
12/17	クリスマスおはなし会(40人)
1/6	新春お茶会(51人)
2/16	おとなのための工作教室「はまぐりで作るおひなさま」(17人)
3/24	春のライブラリーコンサート(SIESTA)(130人)
3/25	竜王町公民館青年学級 演劇・人形劇発表会(60人)

(2) 園へのお出前おはなし会

竜王幼稚園(随時) 10/4(4歳児)、10/20(5歳児)、2/15(3歳児)、
2/23(5歳児)、3/9(4歳児)、3/15(3歳児)
竜王西幼稚園(随時) 4/19(3歳児)、4/21(3歳児)、4/26(4,5歳児)
ひまわり保育園(月1回 偶数月…4,5歳児、奇数月…3歳児)
コスモス保育園(月1回 偶数月…4,5歳児、奇数月…3歳児)

(3) 町内地区へのお出前おはなし会(随時) 12/16 新村・林

(4) 出前貸出

竜王幼稚園 (年3回 6/22、12/1、1/26 1人1冊) のべ 183人 183冊
 竜王小学校 (月1回 1人2冊まで) のべ 1,080人 1,648冊
 竜王西小学校(月1回 1人2冊まで) のべ 894人 1,559冊
 竜王中学校 (年3回 7/12、12/6、1人2冊まで、 1/19 無制限)
 のべ 19人 39冊